

企画展

反ほ古こ紙しの世界

— 和紙の一生 —

「紙くず」から
虎が生まれた。



虎の張り子 田井民芸

2026.

10.13^②火 ~ 12.12^⑤土

会場 神奈川大学横浜キャンパス3号館1階
企画展示室

開室時間 10:00 ~ 16:30

閉室日 日曜日・祝日

※ただし、10/18(日)10/25(日)は開室。

観覧料 無料



神奈川大学日本常民文化研究所
Institute for the Study of Japanese Folk Culture Kanagawa University

〒221-8686 神奈川県横浜市神奈川区六角橋3-27-1

☎ 045-481-5661(代表)

Email jomin-office@kanagawa-u.ac.jp

WEBサイト <http://jominken.kanagawa-u.ac.jp/>

関連事業

① ワークショップ『反古紙が語る昔のくらし ~襖の下張りを調べよう~』

日時:10/17(土)13:30 ~ 15:30

講師:中村慧(杉並区地域の学び推進課文化財係)

平田茉莉子(日本常民文化研究所学芸員)

会場:3号館1階 ミュージアムコモンズ

事前申込制 定員10名(抽選)



お申込ページ

② ギャラリートーク

日時:11/21(土)11:00 ~ 12:00

会場:3号館1階 企画展示室

解説:関口博巨(日本常民文化研究所 所長)

事前申込不要。直接会場へお越しください。

③ 第30回常民文化研究講座「年中行事の近現代史」

日時:11/21(土)13:00 ~ 17:00

会場:3号館305講堂

事前申込制



お申込ページ

企画展

反古紙の世界 —和紙の一生—

江戸時代や明治時代の人びとが、限られた資源を徹底的に使い切っていたことは、よく知られています。紙の再利用はその典型的な例でしょう。反古紙(不用になった紙)にもさまざまな使い道があったのです。漉きあげられた和紙には、文字や絵が書き付けられ(古文書・古記録・古書籍など)、用が済むと裏紙として再利用されました。それらはさらに襖や屏風の下張り、衣服や民具・民芸品の補強材や装飾として転用され、そのうえさらに再生紙として本の表紙や便所で使う落し紙としても使われました。本展では、「和紙の一生」—和紙が漉かれてから使い切られるまで—を実物でたどるとともに、その仕組みがどのように支えられていたのかを展望します。日本の近世・近代社会に展開した「反古紙の世界」には、持続可能な社会へのヒントが秘められています。ぜひお立ち寄りください。

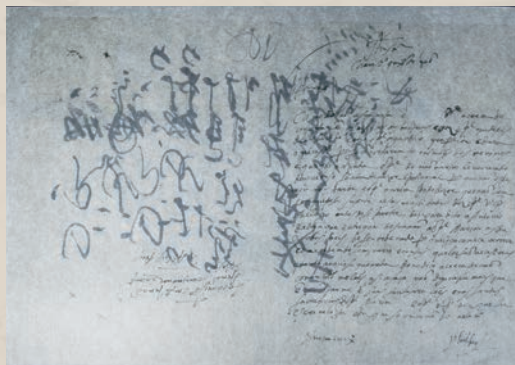
展示構成



国際日本文化研究センター所蔵
Greedy, Edward
『素晴らしき東京』



二神家襖下張り



エヴォラ屏風文書レプリカ

アクセス

神奈川大学横浜キャンパス
東急東横線「白楽駅」または「東白楽駅」下車 徒歩13分



MAP



神奈川大学日本常民文化研究所
Institute for the Study of Japanese Folk Culture Kanagawa University

〒221-8686 神奈川県横浜市神奈川区六角橋3-27-1
☎ 045-481-5661(代表)
Email jomin-office@kanagawa-u.ac.jp
WEBサイト <http://jominken.kanagawa-u.ac.jp/>

